

教育成果に関するアンケート調査について(2024年7月実施)

実施時期: 令和6年7月1日から7月12日

回答方法: Googleフォーム

対象施設: 令和4年度就職先施設

送付数: 77施設

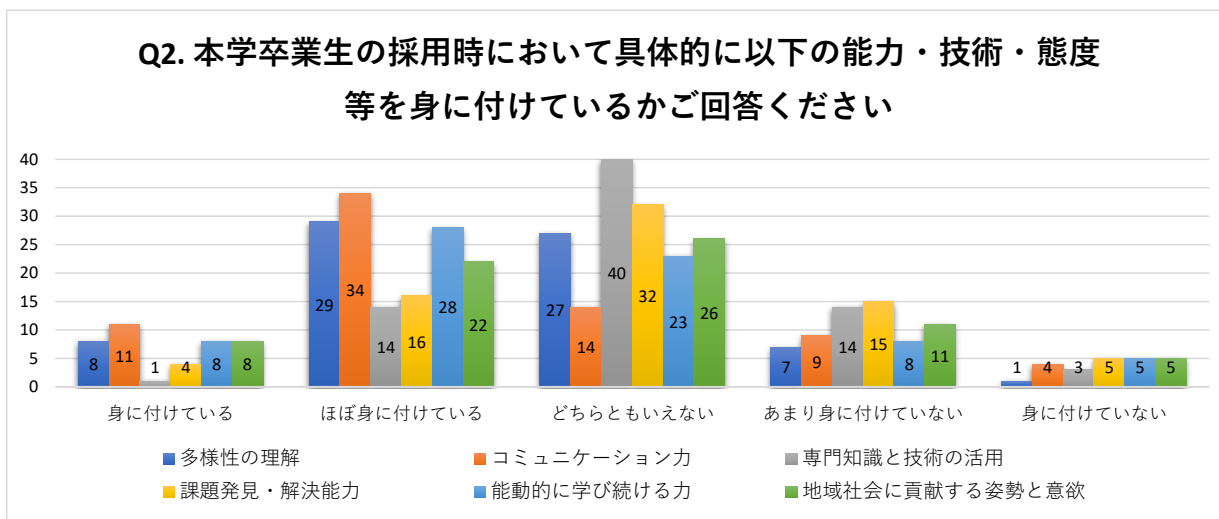
回答数: 72件

回答率: 93%

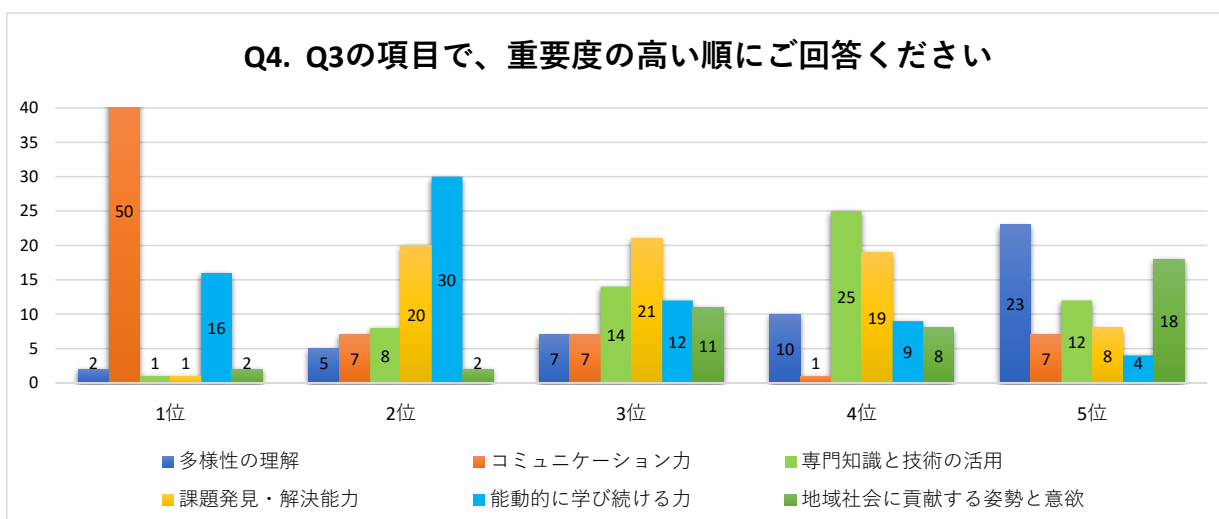
Q1. 本学卒業生の職名についてご回答ください

理学療法士	作業療法士
57	16

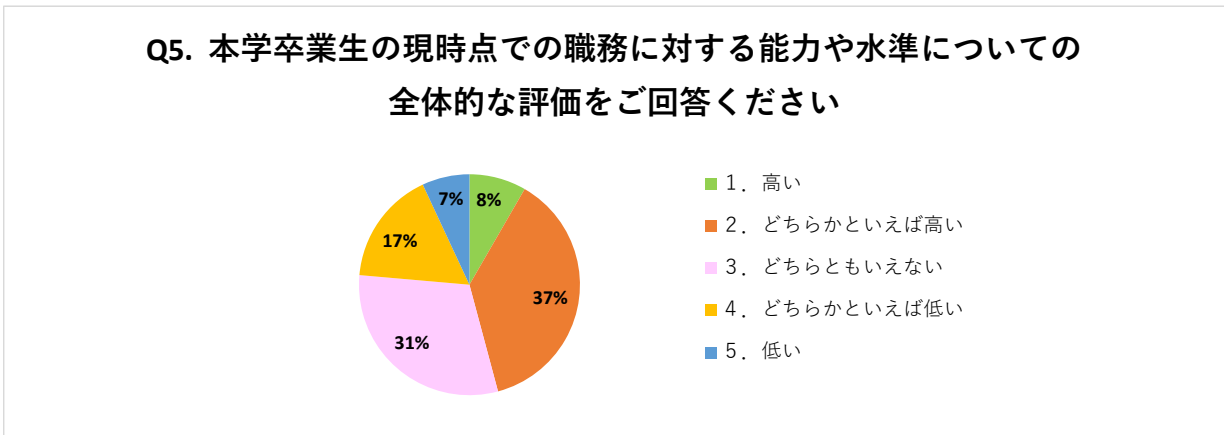
Q2. 本学卒業生の採用時において具体的に以下の能力・技術・態度等を身に付けているかご回答ください



Q3. Q2の項目で、重要度の高い順にご回答ください



Q4. 本学卒業生の現時点での職務に対する能力や水準についての全体的な評価をご回答ください



Q5. 学生時代に身に付けておいて欲しい能力や資質、経験して欲しいことについてご回答ください(自由記載)

コミュニケーションスキルが高いと業務の幅が広がるので、幅広い年代と関わる経験(部活やアルバイト、ボランティアや地域事業など)は多く経験してほしい。
課題に対して困らない。困って考えて、解決に努力する経験をして欲しい。
社会人としての一般常識
礼節、文章の作り方(構成等)、自己研鑽の必要性
自分自身の置かれている状態を自己評価を行う事や、自ら先輩に尋ねるなど、積極的に成長を求める姿勢。何も言われなくてもそれで良いと思っている様に感じる。様々なハラスメントや、指導者においてもタイムパフォーマンス的な視点を持つと、相手が望まないことを指摘する事は無くなる。イコール成長しないまま、自己本位な人になってしまう。
コロナ禍で人との関わりが学生時代に薄くなってしまったためか、組織の中でどう動かなければならないかが身につけていない方が多い印象があります。学生間や教員の方々とコミュニケーションを取ったりグループワークを行ったりするような経験がよりあると就職後にも活きるのではないかと考えております。
知識、技術面に関しては最低限国家試験合格レベルであれば後からついてくると思いますので、自ら学ぶ姿勢と、患者さんと一緒に働く仲間おもしろいと思えばよいと思います。協会に入らないスタッフが多いので養成校でも勤めて欲しいと感じます。
浅くても良いので広く疾患を見学、経験し、適正の判定を。その上で必要ならば苦手分野の払拭を。
社会の評価は、他者がするものであることへの理解。また、自身で俯瞰することの大事さ。
学び続ける姿勢の重要性、社会人としてのマナー(礼儀・挨拶等)
通常のコミュニケーション力と、指導を指摘や批判・否定と捉えず真摯に受け止める素直さ。リハビリ職として必要な考え方のプロセスの習得。
自己発信する姿勢、発言力。
専門職として働いていくための意欲や意識
リハビリに対して興味を持って意欲的に体験できることは少しでも多くの経験を積んでいける機会を設けて頂きたいと感じます
職員に対しての挨拶、態度についての指導ができると助かります。ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。